

発表型	
問い	お互い調べたことを発表するオンラインリアルタイムでの発表型は、遠隔合同授業でよくある活動です。ところが、一方的な説明だけだと聞いている方も集中できない。途中で質問したいな、と思っても、なかなか手をあげにくかったり。オンラインリアルタイムでの発表で、相手にわかりやすく、魅力的に伝えるために、そして、聞いている方が集中してきて、反応できるようにとはどんなレイアウトや工夫が必要なんだろうか？
イメージ	発表型 
レイアウト	<SP> <AC> ・発表者以外の子どもは聞き役になるという点では講義型に近いと感じる。発表内容に対して、それを聞く子どもたちの全員の意見が視覚的にみられるような工夫が必要 <SJ>高性能マイク兼スピーカーの設置を子どもの輪の中心へ。大型モニターに映す場合、光の反射で見えない角度もあるのでブラインドの設置や設置角度を工夫する。複数の端末を置くとハウリングするため、片方の端末のオーディオを切断しておく必要がある。(それは共有などにする) <RJ>発表を聞いている側は性能の良いマイクを中央に置くなど、発表後質問しやすい環境づくりが必要。
使用する機器	<SP>教室の中で行う場合には、ハウリングを防ぐ機器や設置場所等の工夫が必要である。自宅から行う場合、学校で行う場合、それぞれに応じた機器の用意や設定を検討していく。各教室でネット・Wi-Fi環境の整備が必要。 <AC> <SJ>スピーカーやマイクは性能がよいものを使うとよい。教室の中央にマイクを置き、大型のモニターを用意して実践した。ネット・Wi-Fi環境の整備が必要。コストも必要である。 <RJ>ハウリングを防ぐ工夫を行った。SPと同様、状況に応じた機器の設置が必要である。
良いところ	<SP>子どもが主体的に発表できる。子ども自身の発想や、関わり合いを大切にできる。子どもが居場所を感じたり、友達や先生に認められる。単元の中で、最終的な目標の場として設定することも可能。 <AC> <SJ>単元の学習のまとめとして、発表動画を観てもらう場を設定することができる。相手意識をもって発表に向けた準備が可能。 <SJ>動画にはない臨場感が感じられる。また、質問や感想をしたりと双方向の交流も可能である。 <RJ>事前の準備を生かして、自信をもって発表している姿が見られた。
問題点	<SP>ネット環境や機器の準備等、各家庭の支援に支えられての実践であった。 <AC> <SJ>一度に費やす負担が大きく、日常的に継続することが難しい。 <SJ>慣れていないとその場で対話が生まれにくい。準備ありきになってしまう。 <RJ>教室で一斉授業の中でZOOMをつないで授業をする難しさを感じた。
工夫点	<SP>社会・総合等レポートを画面共有で発表した。クイズ形式など、聞き手も参加できる発表の形式の工夫に努めた。高学年や中学生は、聞き手が飽きない発表の仕方の工夫について考えさせることも学びの一つ。一方で低学年は、教師が聞き手に合わせた発表の仕方を教える必要もある。 <AC> <SJ>発表を動画にして送ることができると、時差等を考慮せずに実践することができる。各学年に応じたそれぞれの目標をしっかり設定し、明確な目的意識をもった上で見通しをもった授業づくりを進めた。共通の問題意識をもてる課題設定・単元構成の工夫を図る。 民舞などの練習の際、下級生が踊っている様子を動画で撮り、その動画を上級生に観てもらい、アドバイスを送る。動画を通して児童同士での関わり合いが増える。 <SJ>聴く側にも聴く視点や目標を明確に設定することで、発表する側と聴く側が互いに効果的な学びを得られる。 <RJ>発表を聞くのみならリアルタイムにこだわらず、動画をyoutubeにアップする(視聴制限をかけて)などすれば、各校の都合の良い時間帯で視聴することが可能。 <RJ>発表者が視聴者に「反応ボタン」で感想を聞いたり、簡単なクイズを作って、双方向でのやりとりを実現できます。聞き手がジェスチャーや顔の表情などでメッセージを送るようになるのも、コミュニケーションの学習として指導すれば、よい聞き手を育てることができると思います。 <RJ>視聴者である児童生徒が、「ちょっと待って」と意思表示ができる一時停止のサインを示す仕組みを作り、講義を一時停止できるようにして、速さの調整ができるといいと思います。

困りごと	<SP>発達段階による学力差や能力差を埋める手立てが必要。教師が授業の中で目指す子どもの姿をしっかりとイメージする必要がある。また、話し手にとっても聞き手にとっても、必要感のある発表となるよう、単元の学習問題の工夫についても検討する必要がある。 <AC> <SJ>全体をカメラに映す場合、一人一人の顔が小さく、「〇〇学校との交流」になってしまい、相手校の児童生徒一人一人を意識できない。 <RJ>何のための発表か目的をはっきりさせないと、ただ発表を見るだけで授業が終わってしまう。 発表者へのフィードバックの方法が明確ではない場合が多い。 発表人数が多いときなどは、一人一人にフィードバックする時間が、そのときにはとりにくい。聞いている児童生徒が、発表内容を忘れてしまうことや、誰がどの発表をしたかを忘れてしまうことがある。 発表する準備には時間がかかる。その発表をした後の活動について、あまり考えられていない。
挑戦したいこと	<SP>より各学年の発達段階に応じた授業づくりを進めていく。校内のオンライン交流だけではなく、外部の人に向けた発信の場の一つとしてzoomを活用することも検討していきたい。 <AC> <SJ>日程調整等にかかる時間や手間を極力減らし、気軽に交流ができる工夫を図っていく。動画交流を織り交ぜることで可能になるか。 <RJ>より子どもたちが授業の中で協働する発表型の授業を目指していく。 「なるほど」フラッグ作り／小さな紙に「なるほど」と書いた旗を作る。相手の発表に納得したらその場で旗を振る。発表している人も、旗がたくさん振られているのをいて、相手の反応を感じることができるのではないか。